

「NN事業における**広報**のあり方を考えるセミナー」を開催

柏崎周辺農業水利事業所

2月4日(木)午前在所内研修の一環として、事業所職員を対象に太田信介講師（元農村振興局長）をお招きし「NN事業における広報のあり方を考えるセミナー」を開催し、広報の見直し、効率的な広報対象者への伝え方等について講義を受けました。

最初に、「我々は誰のために仕事をしているのか」という問いが投げかけられ、参加者からは土地改良区や農家、自分や家族のため等の回答が挙げられました。これら回答を受けて、公益・私益・共益という観点から改めて自らの仕事や広報を見つめ直してみると、今までの広報活動は非農家や直接事業に関係のない一般の人々に対するNN事業への理解を得てもらうという視点が欠けているのではないかと気付かされました。そのため、広報対象を明確にし、より効果的かつ効率的に行うためには、自治体の首長等の影響力のある人物や新聞社等からの情報発信や、身近に存在する農業水利施設等の役割について知ってもらうための施設見学会などについて検討しました。これらの活動は、比較的少ない労力でも、人々からNN事業に対する好印象や、維持管理への理解・協力という大きな成果を得られるのではないかと認識を得ました。

効果的な広報活動を行うためには、「日常業務と広報活動は別物ではなく、広報は日常業務の中にある」との考えを組織として認識しなければなりません。私たちの暮らしを支えてきた水土里を守るために、「施設の維持管理を行うためには誰かが必要である」ことを事業所一体となって伝えていくとともに、NN事業に対する間違った印象の原因も究明しつつ、私たちの広報やキャッチコピーが内向きの主張となっていないか、外部や第三者から見て違和感を覚えられないか等、当たり前のことを意識して取組み、通常業務の中で広報をしていこうと思います。



太田氏による講演会



効果的な広報の事例



広報写真の見せ方にも工夫を...